

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年1月31日

### 【評価実施概要】

事業所番号	4075100273		
法人名	竹井不動産有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地 (電話番号)	〒811-4203	福岡県遠賀郡岡垣町内浦955-1	(電話)093-282-7901
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9 人	非常勤 11 人 常勤換算 8.4 人

#### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 平屋建て	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 80,000円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,170 円	

#### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	堤病院(精神科)	ふじた医院(内科)	守谷歯科
---------	----------	-----------	------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山と竹林に囲まれ、小高い丘の上からは遠くの海が見渡せ、周りの民家の庭先には果樹などが植えてあり、自然と触れあうことのできるグループホームひまわりがある。ホームの玄関周りには花壇が整備され、入口に設置してあるベンチは、利用者の憩いの場所で、ホームの家庭的な雰囲気を象徴している。玄関入ると広い廊下の先に吹き抜けの居間と食堂があり、暖かい日差しの中で、利用者と職員と一緒に習字、陶芸、貼り絵など、習い事を一人ひとりの好みに合わせて楽しんでいる。地域住民と交流を図る催しの中で「ホーム敬老会」は家族も参加し、賑やかに開催している。管理者と職員同士の連携がよく取れ、少人数で対応する仕組みが実践されている。利用者、家族、地域住民から信頼されるグループホームを目指し、更なる飛躍に向け挑戦している。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の調査で要改善点は10件あったが、オーナー、管理者、職員の努力で半減している。「理念を地域密着型に改める」「運営推進会議の活用」「成年後見制度の研修受講と資料、パンフレットを揃えて、利用者、家族に説明出来る体制」「職員の習熟度による積極的な研修会参加」「ターミナルケアに向けた指針」などが今後の課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は自己評価、外部評価の意義をよく理解している。結果についても職員が会議の中で今後の取り組み方について検討し、実践に向けて努力している。次回の自己評価は職員一人ひとりが作成し、それに基づいて管理者や職員全員で、取りまとめ作成していくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は利用者代表、家族代表、地域住民代表、町職員、ホーム管理者、職員で構成し、ホームの現状と行事計画、外部評価などを説明し、参加者からは職員体制や運営規定、災害対策(特に夜間対策)などについて、双方向的な意見が出されている。これから色々な課題解決の会議になるよう更なる工夫が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 相談窓口の明示や意見箱も設置し努力しているが、家族の苦情や要望、相談など、現在はほとんどない。家族からの要望などが出やすい雰囲気を演出する工夫や家族会を結成し、家族だけで話し合う機会などを設け、安心して相談できるホームを目指すことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) なだらかな傾斜の山道があるため、町の住民の来訪は難しいが、日課の散歩時に、近所の方と会話をしながら、清掃活動をし、敬老会の食事に運営推進会議のメンバーを招待し、少しづつコミュニケーションが出来ている。今後は地域から信頼され、協力を得られる関係を作り、地域密着型グループホームとして地域との連携が望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、元気に」をホームの理念としている。		地域密着型サービスの意義を理解し、地域の中でその人らしく暮らし続けるという、理念の変更または追加が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を理解し、日々の業務に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町報や回覧板が回ってくる。ホーム周辺の散歩時に清掃活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合い、作成している。外部評価の結果も、職員に報告し改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。区長、役場職員、民生委員、利用者家族が参加しているが、現状報告のみとなっている。		会議の内容を検討し、サービスの質の向上に繋がるように取り組みを進めていくことが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の健康福祉課を訪問し、相談したり情報交換を密に行っている。		町の担当者との関係作りを積極的に行い、課題解決に向けて協議していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する制度の理解はしているが、現在該当者がいない。		権利擁護や成年後見制度に関する各種の資料を準備し、家族にもわかりやすく説明できる体制作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族連絡ノートを作成し、状況報告や相互の情報交換を行っている。金銭管理については、ホーム側が立替をし、月末に領収証を添えて家族に報告、支払いをしてもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族連絡ノートを通じて、意見や要望を出していただき運営に反映させている。また、玄関には「みなさまの意見」箱を設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年職員の離職はない。基本的に本館、新館の職員は固定となっている。パート職については全利用者の状態を把握してもらうため異動はあるが、スタッフリーダーが慣れるまで指導を行っている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては、年齢、性別を理由に制限はしていない。職員の年齢層の幅も広く、生き生きと勤務している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	抑制廃止や利用者に対する言葉遣いなどに注意している。		人権研修への参加や啓発活動に取り組む体制が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修期間を設け、教育係の職員がつき指導している。外部研修会への参加が少ない。		習熟度に応じた研修などを事業所として、計画的に確保する工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流会を行い、意見交換や親睦を深めている。今後は合同の勉強会を企画している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をしていただき、職員や他の利用者との馴染みの関係ができるよう工夫している。家族にはいつでも面会に来ていただけるように配慮し、利用者が安心して暮らせるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は日々の生活の中で、洗濯物を一緒にたたんだり、片づけや楽しそうに会話をしながら、共に支え合い、穏やかに暮らせるように支援している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、本人の行動や表情などから意向の把握に努めている。意向表出の困難な方は、生活暦や家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聴き、全職員で検討し介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態が変化した場合は随時介護計画の見直しをしているが、定期的な見直しが出来ていない。		定期的な介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に出来るだけ応えるように、オーナーや施設長の協力で、通院介助、外出支援など、柔軟に対応している。また、職員の勤務体制などで、ユニット間の協力体制ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者が希望するかかりつけ医の受診ができるように家族と協力し通院介助を行っている。状況に応じて往診に来てもらうケースもある。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や家族との情報交換を密に行い、利用者の健康状態の把握に努めている。		事業所としてのターミナルケアの指針を作成し、関係者との方針の共有が望まれる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねることのないように、言葉遣いや対応に配慮している。個人情報に関する書類はキャビネットに保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせて、食事時間を調整したり、入浴時間も日中であれば本人の希望の時間に入浴できる体制である。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も利用者と一緒にテーブルで、楽しく食事ができている。利用者の身体能力に合わせて食事形態を工夫したり、食事介助もさりげなく支援されている。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間は決めず、利用者の希望にそっていつでも入浴できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの役割や楽しみの支援として、洗濯物のたたみや食事の後片付け、習字、陶芸、草木染などを行い、生活にメリハリをつけて過ごしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の体調に合わせて近隣を散歩したり、ドライブや買い物に出かけている。誕生日には本人の食べたいものを聞き、外食に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については理解しているが、入浴介助時は職員の見守りが難しいため施錠している。		職員の見守りの方法を徹底し、利用者の外出の傾向をつかみ鍵をかけないケアに取り組むことが望まれる。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。地域の方にも協力を呼びかけている。		地域の方に協力していただき、合同での避難訓練の実施や非常食、飲料水などの備蓄の準備が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人記録により把握されている。		水分不足が起こらないように水分摂取量の記録と把握が望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの内装には木がふんだんに使用され、落ち着いた雰囲気になっている。天井には明り取りの窓があり、やわらかな日差しが入っている。玄関や廊下には長椅子が設置しており、利用者がくつろげる場所となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や、使い慣れたタンスや椅子が持ち込まれ居心地よく過ごせる雰囲気である。利用者や職員で作った作品なども飾られている。		